



湘南OT交流会 人間作業モデル ～習慣～

千葉県千葉リハビリテーションセンター
リハビリテーション治療部 小児療法室 作業療法科
吉田尚樹

E-mail : naoki2980@gmail.com
Twitter : よしだなおき (@OtNaoki)
Facebook : 吉田 尚樹

3 POINTS

習慣

役割

環境

イントロダクション

- 人間作業モデル（以下, MOHO）において, 人の作業行動（生活行為）には多くの要因が影響している.
- 今回, MOHOのサブシステムの一つである「習慣化」に焦点を当て, 小児事例の食事について検討する.
- MOHOの視点がある時とない時の違いを追体験し, ホリスティックにクライアントの作業を捉える.

予備知識

脳性麻痺（cerebral palsy:CP）

- 脳性麻痺の言葉の意味するところは、運動と姿勢の発達の異常の1つの集まりを説明するものであり、活動の制限を引き起こすが、それは発生・発達しつつある胎児または乳児の脳のなかで起こった非進行性の障害に起因すると考えられる。脳性麻痺の運動障害には、感覚、認知、コミュニケーション、認識、それと/または行動、さらに/または発作性疾患が付け加わる。

粗大運動能力分類（GMFCS） :Gross Motor Function Classification System

【目的】

- CP児の粗大運動能力障害の重症度を分類

【対象と年齢】

- CP児／0歳～18歳

【注意点】

- 日常生活から評価する

【評価】

- 該当する年齢帯を見てレベルⅠ～Ⅴの当てはまるレベルで評価

レベル	内容（12～18歳の場合）
I	日常生活の移動に制限がない。 手すりを使わずに階段昇降が可能。
II	長距離移動、凹凸のある道、傾斜のある地形、人込みの中の歩行などに困難を伴い、杖や車いすを使うことがある。 階段昇降には手すりが必要である。
III	歩行器を使えば、平坦な道を歩くことが出来るが、主な移動手段は車いすとなる。屋外では電動車いすを使用することが多い。
IV	自分で車いすを操作して移動する能力は制限されており、多くの場面で自力移動には電動車いすが必要である。 介助者に車いすを押してもらって移動することが多い。
V	車いすでは身体を安定させるための追加的パーツが必要で、介助者に車いすを押してもらって移動する。

楠本泰士, 友利幸之介: 小児リハ評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ. メジカルビュー, p90-93. 2019.

近藤和泉, 藪中良彦, 楠本敬二: GMFCS - E & R 粗大運動能力分類システム 拡張・改訂されたもの 日本語版. http://www.fujita-hu.ac.jp/FMIP/GMFCS_%20ER_J.pdf

手指操作能力分類システム（MACS） : Manual Ability Classification System

【目的】

- CP児の日常生活で物や道具を操作する手指操作能力を重症度別に5段階で分類する。

【対象と年齢】

- 4～18歳のCP児

レベル	内容
I	対象物の取り扱いが容易に上手く成功する
II	対象物の取り扱いがたいていのもので達成できるが、上手さ、速さという点で少し劣る。
III	対象物の取り扱いには困難が伴うため、準備と課題の修正が必要となる。
IV	かなり環境調整した設定した場面で取り扱えるようなものであれば取り扱うことができる。
V	すごく簡単な動作さえも困難である。

WeeFIM

【概要】

- **Functional Independence Measure (FIM) を参考に開発された小児版**
- **運動（13項目）、認知項目（5項目）からしているADLを評価**

【対象】

- **0歳6ヵ月～7歳**

【採点方法】

- **介助量に応じて1点～7点を採点**
- **観察 or 養育者への聴取**

Michael E. Msall, Kathleen DiGaudio, Brian T. Rogers: The Functional Independence Measure for Children (WeeFIM). Conceptual basis and pilot use in children with developmental disabilities. CLIN PEDIATR 1994 33: 421.

楠本泰士, 友利幸之介: 小児リハ評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ. メジカルビュー, p90-93. 2019.

事例紹介

事例：Aちゃん、女兒、7歳

- Aちゃんは、脳性麻痺と精神発達遅滞を呈した女の子。
- 在胎37週、出生体重2438gにて出生しました。
- 父と母、姉の仲良し4人家族。
- Aちゃんは身の回りのことをするためにはに介助が必要でした。
- 1歳7ヶ月に外来理学療法、4歳8ヶ月に外来作業療法を開始。
- 家族の希望
 - 「姿勢の安定」
 - 「YES/NOができる」
 - 「右手でスプーンを持って欲しい」

<全体像>

移動は背這い, 自力座位困難

GMFCS IV, MACS IV. WeeFIM 27/126点

<身体機能>

- 痙性四肢麻痺(左>右)
- 上肢の引き込み+. 優位手右
- 定頸-, 頭頸部屈曲により
- 目と手の協調性が苦手
- 座位は屈曲傾向
- 難聴+

<認知機能>

コミュニケーション

- 表出は喃語と表情

知的力量

- 重度知的障害
- 外部への興味関心が高い

自宅での様子

- Aちゃんは、活発で好き嫌いがはっきりしていました。好きなことへは積極的で喜びます。食べることが大好きです。
- 一方、好まないと「やー」と声を出し、すぐに飽きてしまいます。
- あそびは、お姉さんの後を背這いで追いかけたり、カーテンやカゴをかぶる。コロガッタン、TVを観るなどを好んでいました。

作業療法場面の様子



【更衣】

- 座位は介助，靴や靴下に手の伸ばすなど協力動作がみられました。

【食事】

- 座位保持装置上にて母の介助で意欲的に摂取。姿勢は屈曲し，食べこぼしがありました。スプーンを手渡し自食を促すもすぐ介助を求めていました。

【その他】

- 視覚や前庭覚，固有感覚を伴うあそびを好み。おままごとでは母に食べさせる真似もしていました。



作業療法方針・ゴール

スプーンを持って自分でご飯を食べることができる

食事の練習をしてみるが…

座位バランスや上肢機能，食事動作練習を実施。
把持しやすいようにスプーンの柄を太いものに変更。

しかし，
すぐにスプーンを離してしまい，自分で食べる様子はない。

何度も行うが，Aちゃんは自分で食べようとはしません…。



今までの情報で何が分かりましたか？

なぜ、Aちゃんは
自分で食べられないのでしょうか？

体幹の
低緊張？

因果関係
理解？

痙性
四肢麻痺？

座位保持の
困難さ？

MOHOの視点で
覗いてみよう！



短縮版小児作業プログラム（SCOPE）
全体像を評価

短縮版小児作業プロフィール（SCOPE）

- MOHOSTの小児版
- こどもの作業参加に関する幅広い概要を提供することで、実践家の作業参加を促進したり、制限したりする要因を組織的に評価する。

【対象】

- 0歳～21歳までの子どもや青年

【構成要素】

「意思」「習慣化」「コミュニケーションと交流技能」「処理技能」

「運動技能」「環境」

※SCOPEは環境に「家族の日課」が追加

全体像の評価：SCOPE

- 自分でコロガッタンのトンカチを把持し、叩くことはできるが、リーチや姿勢保持に介助が必要であった。
- **遊びへの意欲は高く、好きな遊びを選択できた。**
新規の作業へは道具を投げるなど遂行の困難さが見られた。
- 普段は、**両親がAちゃんの身の回りのことを介助する**という、**決まったパターン**で生活していた。
Aちゃんに自分で行うように促すも嫌がる様子や**手順の曖昧さ**が見られた。

SCOPEの結果

作業への動機づけ		作業のパターン		コミュニケーションと交流技能				処理技能				運動技能				環境								
探索	楽しみの表現	好み選択	チャレンジへの反応	日常活動	変化への反応	日課	役割	非言語的コミュニケーション	言葉や音声による表現	会話	関係	対象物の理解と利用	環境への方向づけ	計画と決定	問題解決	姿勢と可動性	協応性	筋力	エネルギーと持久力	物理的空間	物的資源	社会集団	作業要求	家族の日課
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13点		8点		10点				11点				9点				16点								
67/100点																								

Aちゃんの作業のパターン
「習慣化」
に要因がある

さらに、習慣化の評価を行う

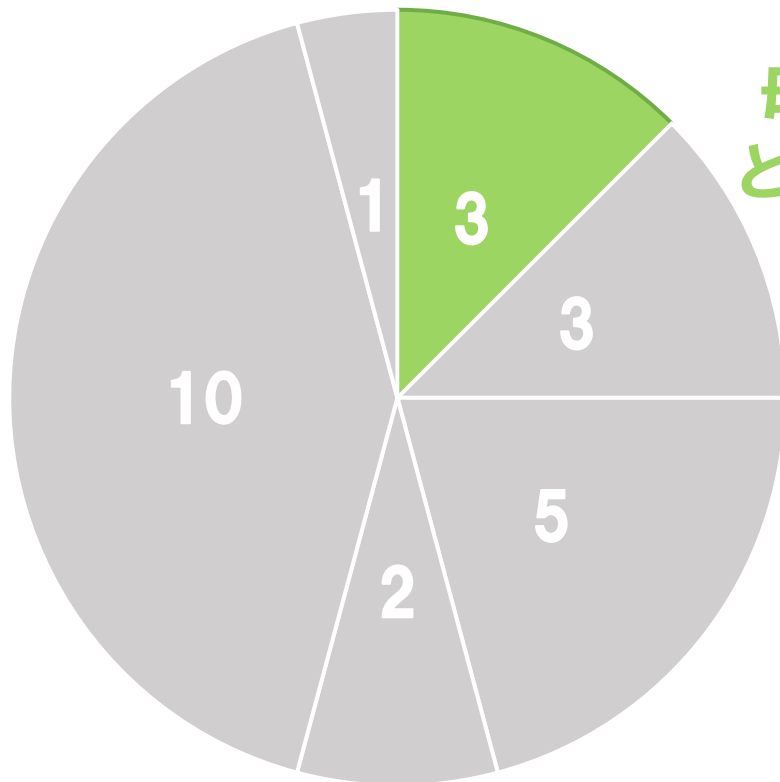


作業質問紙 (OQ)

- クライアントが1日の間に行った活動について記述する自己報告形式の評価法.
- クライアントの時間の使用や経験について詳細な情報をもたらす.
- クライアントの習慣パターンと作業参加について把握できる.
- 活動パターンの意志を把握できる.

習慣化を評価：作業質問紙 (OQ)

1日の作業時間の割合(時間)



【食事】
母の介助
という習慣

母親は、食事についてAちゃんは「よくやっている」と評価。



母が、食事介助を一生懸命行ったという意味があった。



Aちゃんの役割

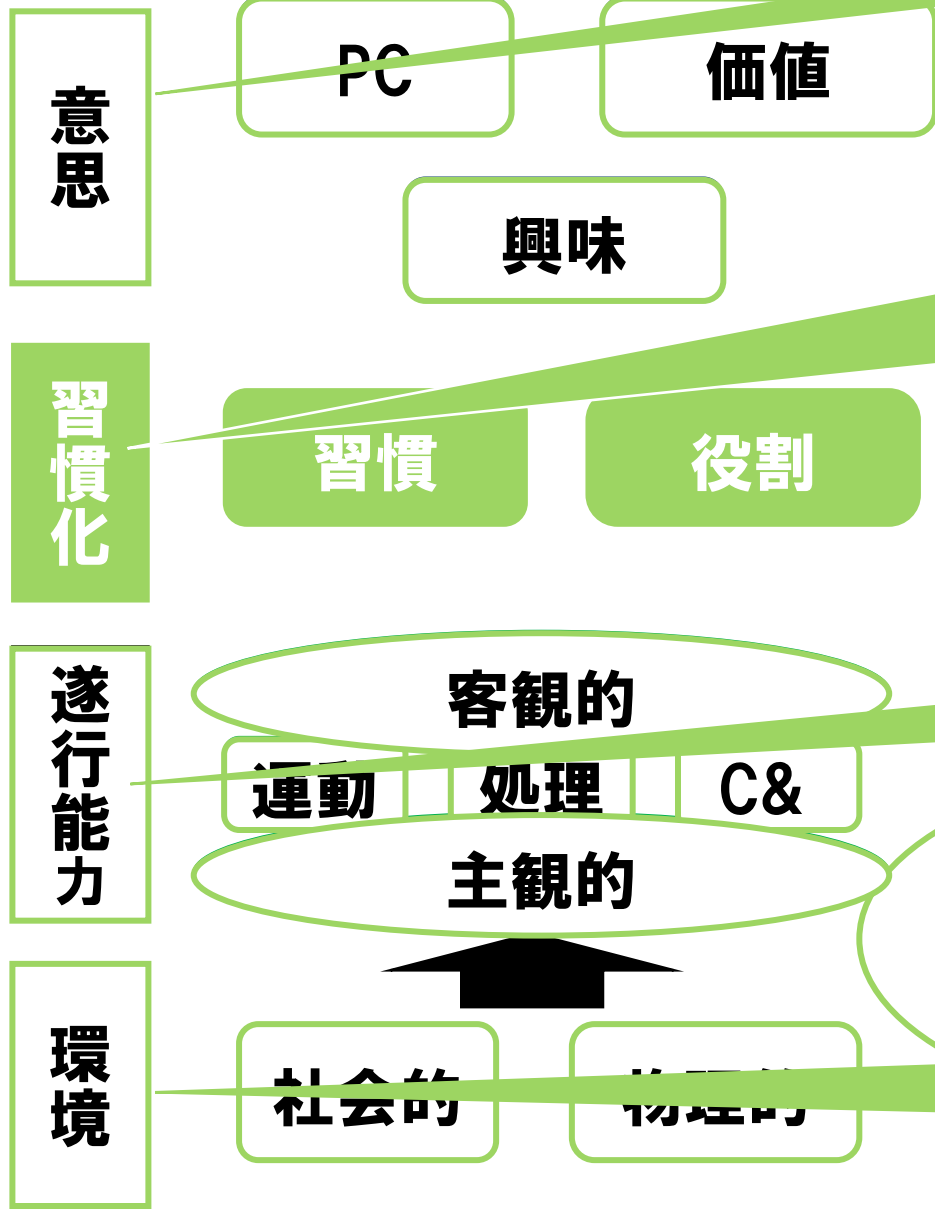
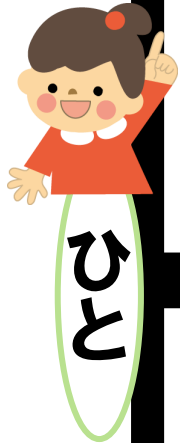
食べさせてもらう

母親の役割

食べさせてあげる

■ 食事 ■ その他のADL (入浴, 更衣, 整容) ■ 学校 ■ 遊び ■ 睡眠, 昼寝 ■ その他

MOHOの視点によるまとめ



・好きな食事やおままごとは主体的

【習慣】
・食事は母親に食べさせてもらう

【役割】
・食事を母の介助で食べる

作業技能・遂行・参加
母の介助で食べる

・姿勢保持
・道具操作に苦手さ
・スプーン把持は可能

作業適応状態
大好きな食事を母の介助がないと食べられない

母親は食事をはじめ、Aちゃん的生活行為全般の支援を積極的に行っている

ディスカッション



「食べさせてもらう役割」から「自分で食べる役割」
に変化するには
どんなアプローチが考えられますか？



回答例

作業療法アプローチ

食事の遂行能力
の乏しさ

母に食べさせてもらう
役割

介助で食べる習慣

方針

主体的な作業を通し
食事におけるAちゃんの
「役割の変化」と「習慣の再構築」

作業における主体性の評価 小児版意志質問紙（PVQ）

あそび(おままごと)

結果:38点

有能性

ADL(靴下の着脱)

結果:33点

有能性

食事

結果:40点

有能性

楽しみの作業＝技能を拡大

アプローチ経過

- Aちゃんが有能性を感じ、技能拡大を図れる「食べる」と「おままごと」を合わせたお菓子作りによる役割の変化のきっかけ促すこととした。
- バギーに座り、療法士が介助や柄を長くしたお玉や泡だて器などを使って一緒にスイートポテトを作った。Aちゃんは終始、笑顔で協力動作も見られた。
- 作ったスイートポテトを母親に食べさせてあげるという役割を設定した。





アプローチ経過

- Aちゃんは、ぎこちなくも母親にスプーンを使って食べさせてあげていました。
- 今度はAちゃんにも食べるように促すと、スプーンを持って自分で食べました。
- 母親には、短時間からAちゃんが自分で食べる機会を作るように提案した。
- その日以降、短時間ですが自食し、日課となっていました。

結果（6か月後）

	介入前	介入後
GMFCS	IV	IV
MACS	IV	IV
WeeFIM	27/126点（食事0点）	28/126点（食事1点）
上肢機能	右上肢の引き込みあり スプーン操作困難	右上肢の引き込み軽減 スプーン操作可能
自食	なし	1/4可能
食事の役割	食べさせてもらう	自分で食べる（1/4量）

短縮版小児作業プロフィール(SCOPE)

作業への動機づけ				作業のパターン				コミュニケーションと交流技能				処理技能				運動技能				環境				
探索	楽しみの表現	好み選択	チャレンジへの反応	日常活動	変化への反応	日課	役割	非言語的コミュニケーション	言葉や音声による表現	会話	関係	対象物の理解と利用	環境への方向づけ	計画と決定	問題解決	姿勢と可動性	協応性	筋力	エネルギーと持久力	物理的空間	物的資源	社会集団	作業要求	家族の日課
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14点				11点				11点				11点				18点								

67点⇒76点

まとめ

MOHOによるリーズニング

家族
環境要因



主体的な作業経験
お菓子作り



母に食べさせて
もらう役割

主体的な作業による役割の変化

食事を母に食べさせてもらう
作業パターン（習慣化）

家族による自食時間の確保

介助で食べる
習慣



家族指導

「習慣の再構築」
「役割の変化」

「自食の獲得」

SCOPE
OQ
PVQ

習慣化

- 習慣化とは、**習慣と役割**から導かれ、時間的、物理的、社会的環境の日課の特性に合わせた行動の首尾一貫するパターンを示す取り入れられた準備状態。**半自動的な行動パターン**。



習慣

役割

継続

習慣化
の形成

効率的かつ自動的に
日課の行動を行う



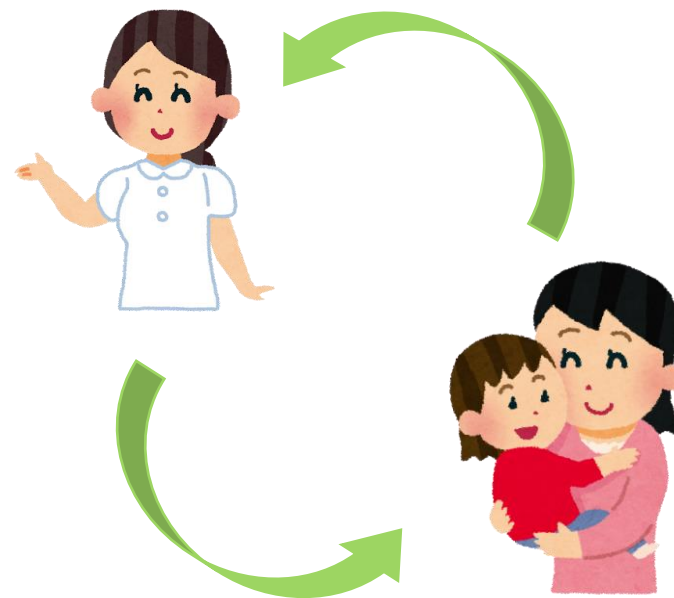
習慣

- 一定の**首尾一貫**した方法で、**自動的に**反応したり遂行したりするために獲得された傾向。
- 文法や言葉を組織だてたり、ルールがゲームを規定するのと同じように、**習慣は行動を導く**。
- 習慣は、特定の**環境の中で**、これまでの遂行から何らかを行うことを学んできたやり方を維持している。



役割

- 取り入れられた役割とは、社会的および個人的に定義された**立場**と、それに関連する一連の**態度や行為の取り入れ**.
- 役割は3つの主なやり方で行動を組織化
 - ① 私たち**行為のやり方や内容に影響**を及ぼす
 - ② 私たちが行うある**行動の種類**を作り上げる。
 - ③ 役割を担うときに、時間を1日や1週間という**サイクル**に区切っている。

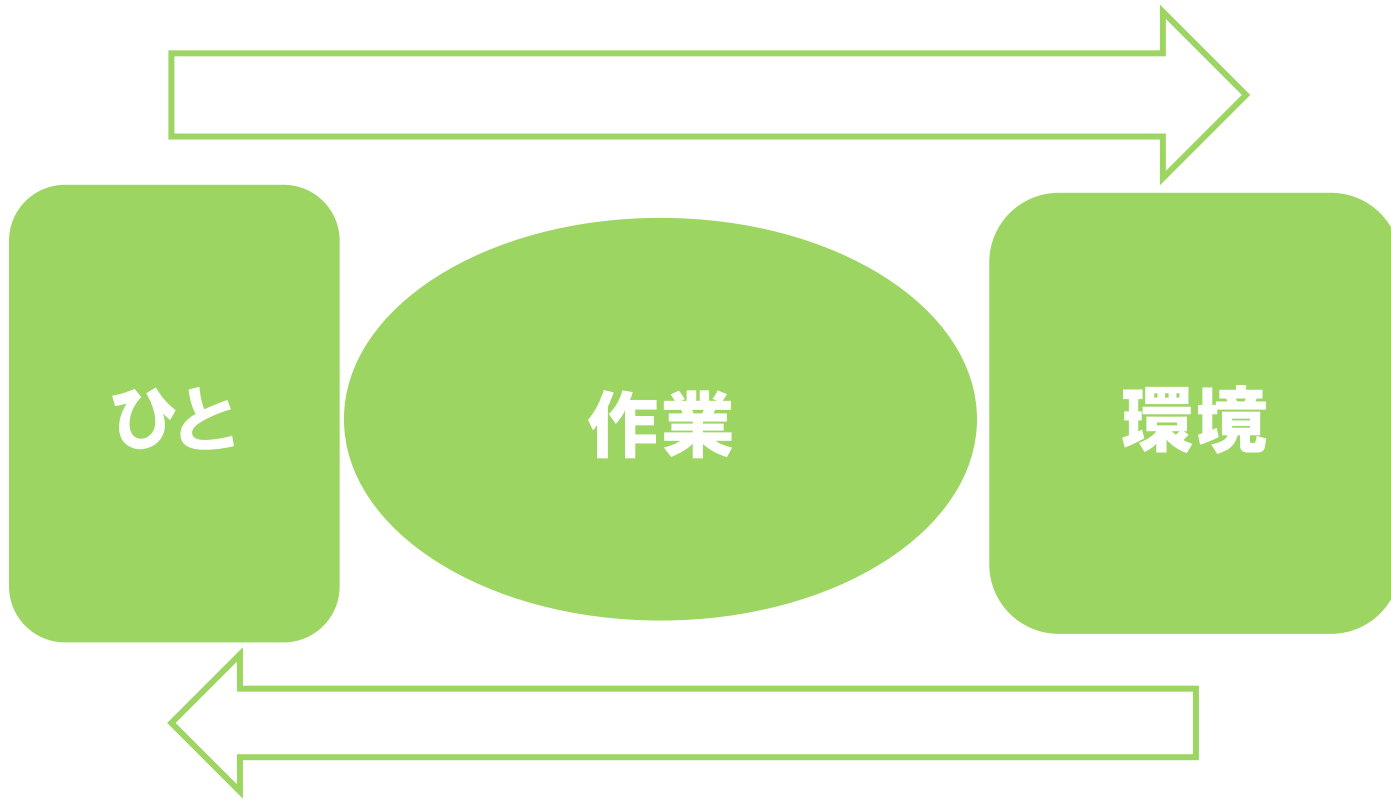


環境

- 動機付け, 組織化, 作業の遂行に影響を与えるある人の特定の物理的, 社会的, 文化的, 経済的, 政治的な流れの特徴



環境と作業，ひとの相互関係

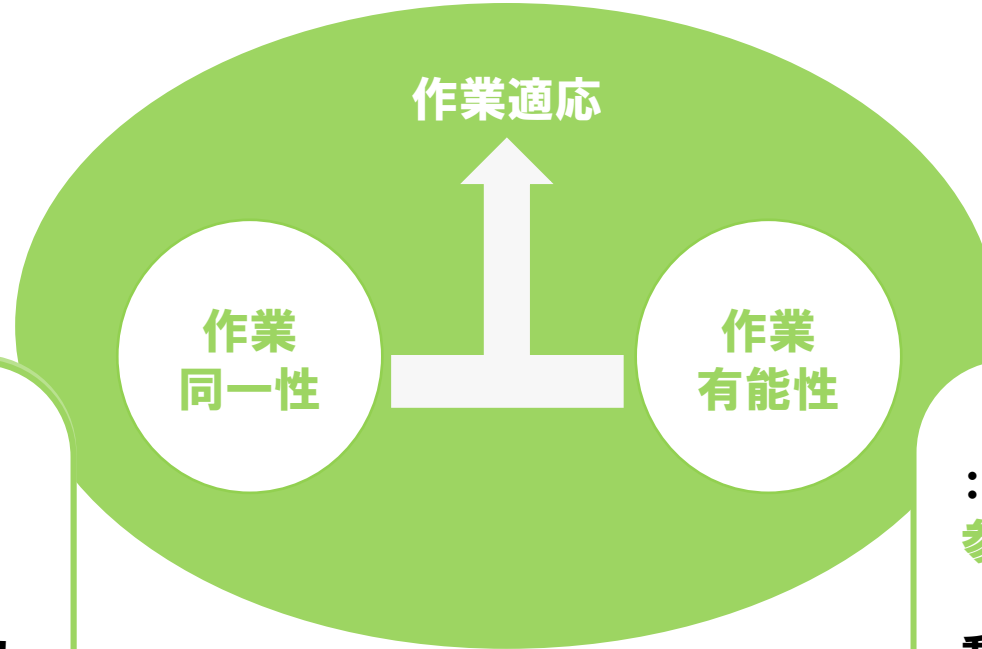


- プラスの作用 : 機会と資源
マイナスの作用 : 要請と制約
- 動機付けの情報や行動
パターンの提供
- 習慣や役割の発達に影響を
及ぼす

作業適応

【作業適応】

:自分の感情の流れの中で、肯定的な**作業同一性**を構築することと時間的経過の中で**作業有能性**を達成すること



【作業同一性】

:ある人が作業参加の個人史から作り出す**作業的存在**として、自分は何者であり、どのような存在になりたいのかという複合的な**認識**

【作業有能性】

:自分の作業同一性を反映する**作業参加のパターン**を維持する程度。

有能性は現在行っているやり方で動作に移すこと。有能性は自分の基本的責任と個人的基準を満たすために自分の生活を組み立てる、役割義務を果たすことへ広がり、満足し関心を持つ生活を達成する

作業の変化と発達



- 人々は**行うことを通して自らの発達を促す**
- 子どもは**学校へ行き、あそびや日常生活活動を通して自らを形作る**
- **変化の過程：探索→有能性→達成**

変化

<探索>

:人々が新しい物事を試み、自分の能力、好み、価値について学ぶ変化の最初の段階

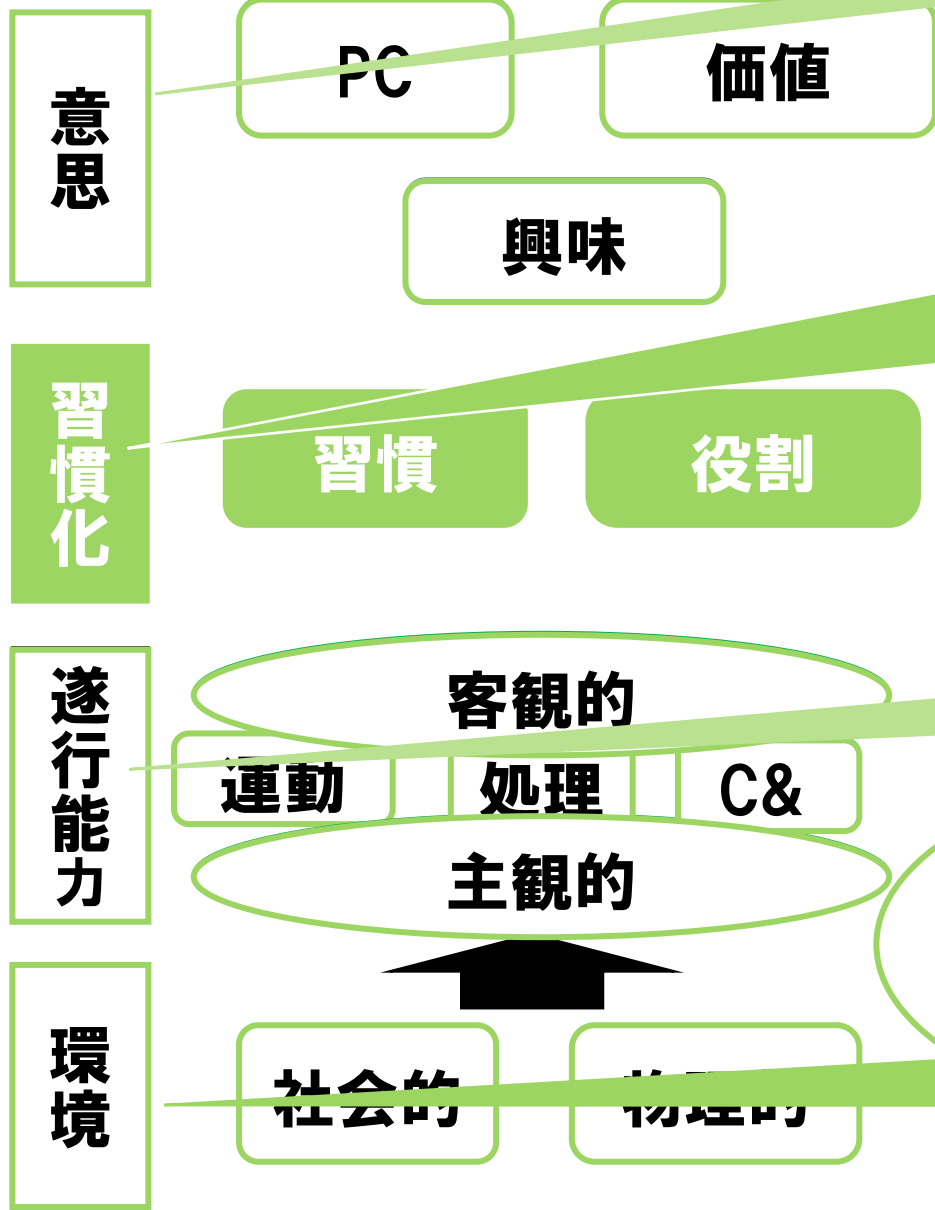
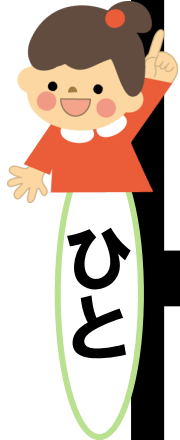
<有能性>

:人々が探索を通して発見した新しいやり方を固め始めるときの変化の段階

<探索>

:人々々が何らかの新しい仕事、余暇活動、あるいは日常生活活動に完全に参加するのに十分な技能と習慣を持つときの変化の段階

MOHOの視点によるまとめ



・好きな食事やおままごとは主体的

【習慣】
・毎日、食事の1/4を自分で食べる

【役割】
・食事を自分で食べる

作業技能・遂行・参加
食事を自分で食べる

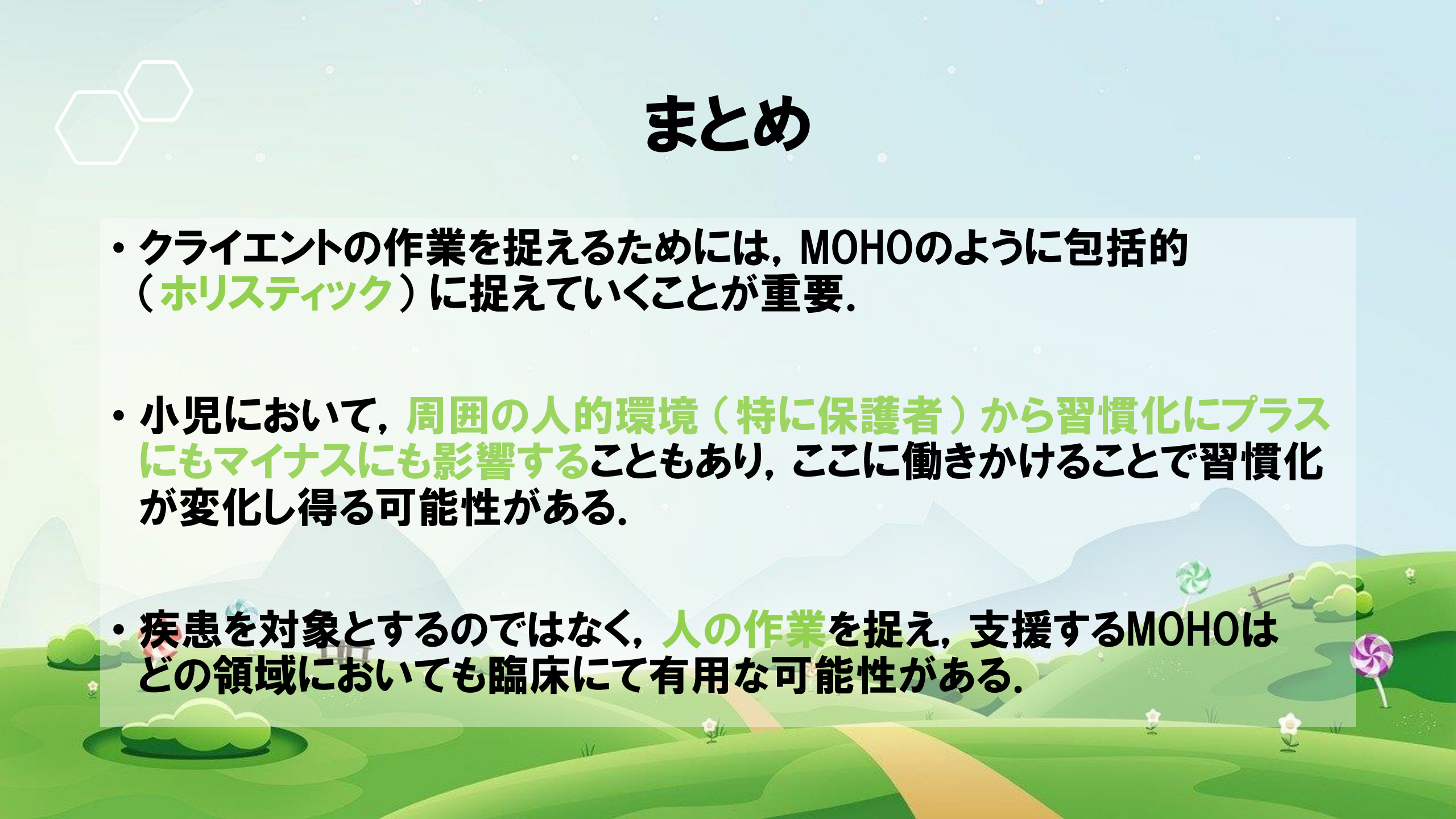
・姿勢保持の苦手さ
・道具操作に苦手さ
・スプーン把持は可能

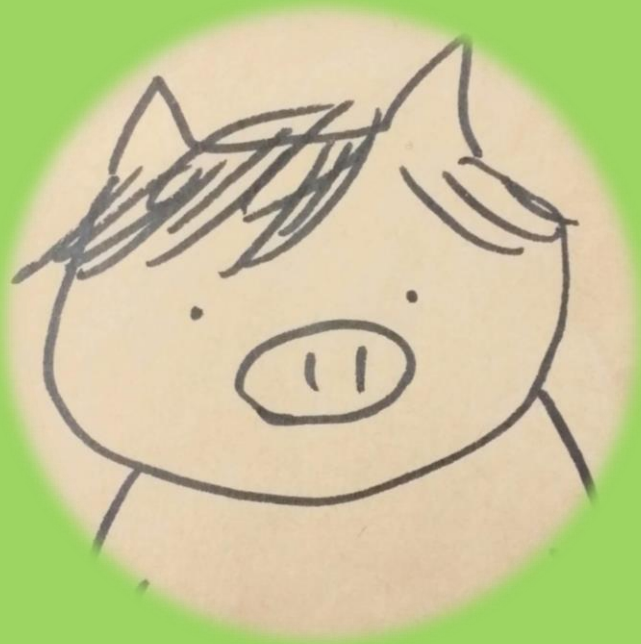
作業適応状態
自分で大好きな食事を
家族と一緒に食べられる

母は、Aちゃんが自分で食べる時間を日課とした



まとめ

- クライエントの作業を捉えるためには、MOHOのように包括的（ホリスティック）に捉えていくことが重要.
 - 小児において、周囲の人的環境（特に保護者）から習慣化にプラスにもマイナスにも影響することもあり、ここに働きかけることで習慣化が変化し得る可能性がある.
 - 疾患を対象とするのではなく、人の作業を捉え、支援するMOHOはどの領域においても臨床にて有用な可能性がある.
- 



ご質問などあればお気軽にご連絡ください

E-mail : naoki2980@gmail.com

Twitter : [よしだなおき \(@OtNaoki\)](https://twitter.com/OtNaoki)



Facebook : [吉田 尚樹](#)

